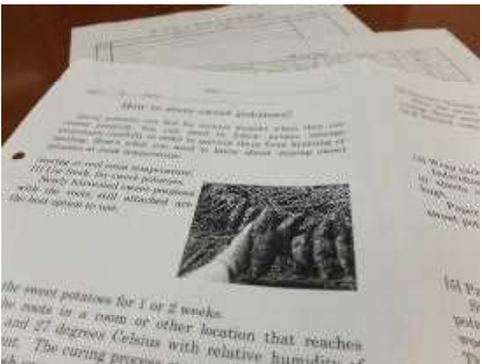


うんとこしょ

私がまだかわいらしい幼稚園児だった頃（約五十年ほど前）、どこの幼稚園・保育園でも行事としてやっていたお芋掘り。今でもメイン行事の一つなのでしょいか。

さて本紙第二号で紹介した「お芋」が収穫の時期を迎えました。



前回紹介しておりますが、これは「英語」の授業。種芋植えるのと違って、「うんとこしょどっこいしょ」ってお芋を掘るのに、テキストを手に持ちでは作業になりません。英語担当が工夫をして、事前に「英語」でお芋の掘り方他について学習し、収穫となりました。



校庭の片隅に急造した畑でしたので、水はけがあまり良くなく、ひよっとすると腐り気味になっていたりかもしれないという「英語」担当者の不安をよそに、生徒たちは手掘りで次々に大きなお芋を収穫していきます。「うわ

く、でけく」「あく、引っ張ったら切れたく」。英語の授業ですが、体を動かしながら思わず口に出る言語はどうしても母語

（日本語）になってしまっていますね。

生徒の足下にはまるまるとお芋が



次々と掘り出されていきます。まるで発掘するように、丁寧な周りの土を取り除く生徒もいます。

さて、収穫したところで「英語」の授業は終了です。このお芋の行方、



気になりますよね。

本校には、家庭科の教科で「フードデザイン」という選択授業があります。収穫したお芋は、英語科の手を離れ、教科を横断し、家庭科のフードデザインへ。ちょうど実習で作る沖縄県の揚げ菓子「サーターアンダーギー」。普通は中に具はありませんが、今回は収穫した芋を取り入れてみました。まさに、お芋の教科横断型授業。生徒の興味を

引きつけます。私としては、「うんとこしょどっこいしょ」の英語表現が気になります。早速、グーグル翻訳のページへ。なんと、出てきた訳は「Yeah」

え？えええええ！ そんなかけ声で力強く引けないでしょ。「おおきなかぶ」の原作を見に国会図書館行かなきゃ（こうして無限に興味関心は広がるのであった）。

タイカン



角川映画「セーラー服と機関銃」で主役の薬師丸ひろ子が、マシンガンをぶっ放し、「カ・イ・カン」と呟くシーンは、本当に飛んできた瓶の破片で頬から血を流す偶然の演出と相まって、あまりにも有名ですが（え？知らない？）、ここでは、「カイカン」が話題です。



今月十五日、本校二年生では、いわき市高校生就職支援事業の一環として職業に関する興味と就業意識の醸成を図ることを目的に、市内の企業見学や職業訓練体験をする「いわきの“職”体感ツアー」を実施しました。バスに乗り込む写真だけ見ると、遠足にでも出かけそうな雰囲気ですが、参加の心構えに関する学級での指導も有り、仕事というものを「タイカン」すべく、表情は真剣です。

今回は株式会社タングロイ様（好間町）、遠野興産株式会社様（遠野町）に本校生の「タイカン」先を引き受けていただきました。

校長のつぶやき



最近、右肩を痛めて勿来二中の近くに新しくできた接骨院に通っています。ここの手技療法が本当に上手で、私には大変効果があるんですが、それにもまして、この

の先生が秀逸。肩の可動域を広げようと少し力強く施術する時、「中野さん、ちょっと痛いかもしれません。いいですか、恨むなら恨んでもらっていいですから〜」

目的が明確な手技による治療。上手に痛くて、結果、可動域は広がりました。



ふと、ちょっと厳しく指導した面接練習を思い出しました。試験が間近に迫っているのに、修正点が多い。優しく教える方法はいくらでもあるけれど、それでは間に合わない。今にして思えば、「恨んでもらっていい」って気持ちだったのかな。

後日、その生徒が合格の報告にきました。「学校の面接練習で厳しく指導されたので、本番は楽に感じました。」と。

目的が明確な厳しい指導。指導の過程は辛いこともあるかもしれませんが、目的が明確なだけに結果には現れます。

学校という空間には様々な指導場面がありますが、私達も生徒も目的をどれだけ理解して指導に臨むのが大切なんですね。